

9月定例会終わる

9月4日から14日までの11日間で開催

頓原庁舎の跡地利用に係わる予算が提案された。駐車場と広場を整備するもので、今後の活用が期待される。

谷地区では、地域の課題を把握し、ボランティア活動と結びつける目的で、中間支援組織を立ち上げる。

琴引スキー場の人工降雪機用貯水池が、7月豪雨のため排水溝が沈下し、堰堤がひび割れた。設計した業者が瑕疵を認め、補償額を考慮した予算が提案された。

来年度から森林経営管理制度が始まる。準備のため林政アドバイザーを雇用する。

※森林経営管理制度
経営管理が行われていない森林を、市町村が仲介役となり森林所有者と森林経営者をつなぐシステムを構築し、担い手を育成する制度。



可決された主な議案

■ 条例関係

飯南町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定についてなど2件

■ 予算

平成30年度飯南町一般会計補正予算(第5号)など7件

■ 諸議案

H30(交付金)町道頓原長谷線道路改良工事(8工区)請負契約の締結など4件

■ 報告

平成29年度健全化判断比率及び資金不足比率の報告1件

陳情

谷高齢者「コミュニティセンター改修要望書」

〔陳情者〕 谷自治区長(谷自治振興会会長) 永田 一博

〔審査委員会〕総務厚生常任委員会

〔審査結果〕 採択

決算審査特別委員会を設置

平成29年度飯南町各会計の歳入歳出決算をするため、決算審査特別委員会を設置しました。

委員長 門眞一郎
副委員長 安部丘

委員 伊藤好晴

瀧尻行雄

高橋英次

景山登美男

Q 避難対応の手順は

7月豪雨出水時の町民への早めの情報提供は良かった。その際の避難所設置箇所が、設定された避難場所と異なっていたがなぜか。また、過去の記録から警戒水位、氾濫危険水位など情報収集に努めれば、早い対応ができるのではないかと。河川の流量がわかるように、橋脚に印をつけてはどうか。

早めの住民避難には、正確な情報収集が必要だが、ルールはできているか。また、避難場所での対応等きちんとした手順書ができているのか。併せて計画的な実践訓練を求め

A 今年度中に検討する

町長 山崎 英樹

反省を踏まえ、各支所を早い段階で避難場所として開設し、行政の体制を整えた。防災担当者以外に主任以上の職員も動員し、降雨予報の観察、関係機関との連絡調整等、夜を徹して行った。

情報収集には、県の防災情報システムやNHKなどを活用している。橋脚に印をつける方法は今後検討する。

豪雨の際には、災害警戒本部を設置する。松江地方気象台長とのホットラインを構築し、直接連絡をもらうシステムになっている。

避難所運営マニュアルを今年度中に策定予定だ。大きな被害を受けた呉市の避難所で、職員2名が4日間支援活動に臨んだ。その経験を活かした自主防災組織の強化に努める。

Q 地域おこし協力隊支援は

7月18日の山陰中央新報で、松江市の協力隊2名がジビエの製品開発を通して地域の活性化に取り組み記事が掲載されていた。

町内で活躍している11名の協力隊員は、自ら思い描いた活動ができているのか疑問に思う。募集要項と活動状況および満足度はどうか。

A 満足度は高い

地域振興課長 那須 忠巳

総務省の定める要項に基づき、全国から募集している。募集要項を見て、自らの思いと合致する団体に応募し、元気に活動を展開している。

2か月に一度、全員が集まる交流会や、県主催の研修会に参加するなど、スキルアップも図っている。会議の雰囲気や会話の中から、満足度も高いと感じている。

町政を問う

一般質問

9月定例会



内藤 眞一 議員



協力隊員

